



(株)まちづくりカンパニーが管理運営する
中央通り地区市街地再開発ビル「TOKO-TOKOおおたわら」

高瀬 重嗣 議員
市の各種施設について

質問(高瀬重嗣議員) バリアフリー化の進捗状況及び公共施設全体の利用見直し計画について伺います。

答弁(市長) 市有建築物の現状については、建築年次の古い建物は玄関等に段差があるもののほか、玄関までの通路に段差がある施設も少なくありません。

これらについては、利用状況等を勘案して、必要性のあるものについては改善したいと思いますが、スロープ設置等のスペースがないなど物理的に設置困難な施設

設もあります。

なお、今後新たに建築する場合には、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、いわゆるバリアフリー新法及び栃木県ひとにやさしいまちづくり条例を遵守した整備をしたいと考えています。

また、公共施設全体の利用見直し計画については、比較的規模の大きな建築物については、その建築費に多額の予算を必要とすることから、それぞれの用途の目的に応じて国や関係機関からの補

星 雅人 議員

中心市街地の再開発事業について

質問(星雅人議員) 中央通り地区市街地再開発ビルの計画変更の過程について伺います。

答弁(市長) 中央通り地区市街地再開発ビル(以下「再開発ビル」という。)については、当初は13階建てで、総事業費約52億6000万円を見込み、ビルの中には商業施設を初め医療モール、図書館、美術館、高齢者用住宅、公営住宅、権利者住宅、展望レストラン等が計画されていました。

しかし、再開発ビル建設後の施設維持管理における市民負担等を考慮し、平成22年7月に美術館を初め高齢者用住宅、公営住宅、展望レストラン等を見直すことで建設規模を7階建てとし、総事業費を36億円に縮小し、身の丈に合った開発を推進することになりました。

さらに、平成23年3月には東日本大震災の影響で、市本庁舎を初め数多くの市の施設が被災をし、多額の復旧費用が見込まれたことから、再開発ビル内の公共公益施設維持管理における市民負担等を考慮し、平成22年7月に美術館を初め高齢者用住宅、公営住宅、展望レストラン等を見直すことで建設規模を7階建てとし、総事業費を36億円に縮小し、身の丈に合った開発を推進することになりました。

なお、1階の商業施設についても全てのエリアにテナントが決まり、5階、6階、7階の住宅部分についても保留床の全てが完成しました。工事についても予定どおり今月中に完了し、各区分所有者に引き渡されることになっており、本年10月1日以降は、ビル周辺の道路整備等を残すのみになります。

助金を受けて建築していますので、その性質上、別の用途への変更はできないものとなっていますが、既存施設については適正管理を行ってその機能が保持できるように維持補修を行っていきたいと思います。

なお、現在の大田原図書館については、再開発ビル「TOKO-TOKO」(仮称)生涯学習センターに移転した後、(仮称)生涯学習センターとして再整備し、1階部分は市民の社会教育活動及び社会貢献活動に供する施設として、2階部分は中高生を主に対象とした学習室として活用する改修計画を策定しています。



(仮称)生涯学習センターに予定されている
現在の大田原図書館